



【愛とあわれみによって回復に導かれる神】

聖書本文:エズラ記1章1-11節/ 暗唱聖句:ヘブル人への手紙12章6節

説教者:鄭南哲牧師

今日は旧約の15番目の聖書であるエズラ記についてお話をさせていただきます。

エズラ記は70年間、バビロンの捕虜以後、ペルシヤの王クロスの勅令によって本土に帰還することとエルサレムに戻って破壊された聖殿を建築し、民たちの罪を洗い聖める働きが記録された聖書です。エズラ記はおもに二つの部分に構成されていますが、始めの所は聖殿を再建させるために、シェシュバツアルとゼルバベルの指導のもとで行われた第一次帰還(1-6章)と、二番目のところは民の霊的状态を再建するためエズラの導きのもとで行われた2次帰還(7-10章)です。

<1. 聖書本文の背景>

前回、北イスラエルと同じく南ユダも結局偶像崇拜と神に不従順の罪によって滅ぼされ、その民はバビロンの捕虜として連れられて行ったと申しあげました。彼らは預言者エレミヤが預言したように70年間、捕虜として生活することになります。この捕虜期間中の民族的悲しみを歌った詩が詩篇137編です。この詩には国を失った民族の痛みと悲しみが込められています。“バビロンの川のほとり、そこで、私たちはすわりシオンを思い出して泣いた。その柳の木々に私たちは立琴を掛けた。それは私たちを捕え移した者たちが、そこで、私たちに歌を求め、私たちを苦しめる者たちが、興を求めて、「シオンの歌を一つ歌え」と言ったからだ。”このように始まるこの詩がバビロンの捕虜の期間中に書かれた詩なのです。

ところが、ユダの民族が70年間捕虜としている間、当時バビロン帝国にも大きな変化がありました。いままではバビロンが最強国でしたが、新しいペルシヤという帝国が登場しました。この国の王がクロス(Cyrus)でした。この新生の帝国が紀元前539年でバビロンを征服し当時の世界の覇権(はけん)を握ります。このクロス王が538年には勅令を下しました。その内容が1章2節以下です。その内容は3つに要約(ようやく)できます。一つは捕虜として連れられたユダ民族に自由を宣言したのです。つまり、70年間の捕虜生活を終え、自分たちの本国に帰るようにと許したのです。二つ目はバビロンのネブカデネザルによって破壊された聖殿をもう一度再建するようにと許しました。三つ目はネブカデネザル王が略奪したすべての物の返還を約束しました。(エズラ1:5-11)

バビロンに捕虜として捕まれていた彼らがもはや自分たちの故郷である神様の約束された地に戻る様になりました。クロスの勅令によってユダ民族がついに紀元前536年エルサレムに戻りますが、これを第一次帰還と言います。この時の指導者がゼルバベルとシェシュバツアルとヨシュアでした(エズラ2:2,3:2)。

‘ゼルバベル’とはバビロンで生まれたと言う意味です。‘シェシュバツアル’はダビデの系列の王子ですが、彼はエルサレムの総督として指名されました。とにかく、彼らの指導のもとに、イスラエルの民族は帰還されますが、バビロンから返ってくる距離はエルサレムまで700マイル、つまり1200kmに至りました。この時戻ってきた人口が約5万人ですが、帰還された人々の名前がエズラの2章に記録されています。70年の捕虜生活を終えて、本土に戻るこの長い旅を第2の出エジプトと言います。長い間、他国の支配の下にいて解放と自由を味わった時の喜びと感激はどんなに大きかったでしょうか。この解放の喜びを歌った詩が詩篇126編です。“主がシオンの捕らわれ人を帰されたとき、私たちは夢を見ている者のようであった。そのとき、私たちの口は笑いで満たされ、私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。そのとき、国々の間で、人々は言った。「主は彼らのために大いなる事をなされた」”このような主からの解放と回復の喜びと魂の満足が愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん一人一人の上にも豊かにありますように主イエスキリストの御名によって祝福し、祈ります。

<2. 第二の聖殿, ゼルバベル聖殿の建築>

本国に戻った彼らはエルサレムに集まり、まず始めに神様にいけにえをささげました。これが3章の内容です。神様に感謝の礼拝をささげながら感謝とこれからの導きのために祈りました。聖殿をふたたび建築する前までイスラエルの民は礼拝を捧げるところがなく、作ったのがイエス様の当時のあったような小さな会堂でした。これから本格的に聖殿建築を始めます。しかし、サマリア人たちの反対と妨害で約14年間中断された時もありました。しかし、神様の預言者であるハガイとゼカリヤの励ましによって(エズラ4:23-5:17)紀元前520年聖殿が再建されます。帰還されて20年経った時でした。このように再び建てられた聖殿を‘第2の聖殿’、‘ゼルバベル聖殿’とも言います。聖殿が再建された時、多くの人々が喜びと感激で声を張り上げました(3:12)。このゼルバベルの聖殿は新約時代イエス様の時までありました。

<3. 指導者エズラの第二の帰還>

1次ゼルバベルの帰還の後、長い80年と言う時間が経った紀元前458年指導者エズラ(助けと言う意味)は祭司、レビ人、平民など男子だけで1753名ですので、子供、女を含めて約5千人を引率して4ヶ月あまりかけてエルサレムに戻ってきます。これを第二次帰還と言います。8章にはまた帰還された人々の名簿が書かれています。

エズラは律法を研究して、伝える書記官でした(7:6)。祭司長のアロンの子孫であった彼は会堂の創始者であり、モーセ、サムエルとともに旧約の偉大な3人の中の一人でした。帰還したエズラはまず、罪を告白し、神様の御言葉による改革を行います。なぜなら、残っていた北イスラエルの民から始め、帰還したユダヤ人たちはまた異邦の人々と結婚したり、霊的に墮落し

ていたからです(エズラ10:7-9)。これがさきほど読んだエズラ記の内容です。

<4. エズラ記に表れた約束の神様、愛と回復へと導いて下さる神様>

今日の本文を通して、我々が信じている神様は預言と約束を成就される神様であることが分ります。

本文の1章1節を見て下さい。“ペルシヤの王クロスの第一年に、エレミヤにより告げられた主のことばを実現するために”と始めます。預言者エレミヤはすでにユダ王国が敗亡し、70年間バビロンの捕虜となることを預言しました。エレミヤ25章11節によると、“この国は全部、廃墟となって、荒れ果て、これらの国々はバビロンの王に七十年仕える。”と預言し、また、70年間の捕虜生活後、彼らがふたたび戻ってくる事をもあらかじめ、預言しました。

この預言がエレミヤ29章10節に記録されています。“まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。」”神様はクロス王の心を変え、勅令を通して捕虜生活の帰還と回復を預言したエレミヤの預言を成就されたと言われました。(エレミヤ25:11-12,29:10-14)神様は人間のすべての歴史を治めておられ、人類歴史のすべての始終を導いていかれる方です。義なる神様、公平の神様がすべての歴史の主権者(しゅけんしゃ)であることはなんと慰めでしょうか。？我々が信じているその神様は信仰の共同体に、我々個人の人生において言われた約束をかならず成し遂げて下さいます。神様の約束は破棄(はき)されません。人は約束を破ったり、変わったりしますが、神様の約束は決して破棄することはできません。エズラ記は神様が神の預言者だったエレミヤを通して下さった預言がそのまま成就されるという事を表してくれる聖書です。

そして、神様は神様の愛を示し、回復へと導いて下さいます。

神様はご自分の民を永遠にバビロンの捕虜として置かないで、70年が過ぎた時ご自分の民を本土に戻させました。たとえ、彼らが罪を犯してゆえ、懲らしめを受けたのですが、神様は彼らを再び回復させました。懲らしめは愛の表示(ひょうじ)であり、関心の表示です。ですから、愛する者には懲らしめがあります。申命記8章5節によると、“あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練することを、知らなければならぬ。あなたの神、主の命令を守って、その道に歩み、主を恐れなさい。”ここでは、訓練するという表現になっていますが、イスラエルの民が偶像崇拜と不従順の罪を繰り返し、犯したとき、神様は民を懲らしめました。懲らしめは神様からの愛の表示です。

ヘブル人への手紙12章6節もです。“主はその愛する者を、懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからです。訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生児であって、ほんとうの子ではないのです。”

神様は御民をバビロンと言う国をとおして懲らしめましたが、ペルシヤの王クロスをとおしてふたたに約束の地に導き入らせてくださいました。神様は彼らを癒し、回復させてくださいました。バビロンの捕虜たちは偶像崇拜の罪から完全に断ち切りました。捕虜以前は偶像崇拜の罪を繰り返し犯しましたが、捕虜以後はその罪は犯しませんでした。

イザヤ書54章7節によると、“「わたしはほんのしばらくの間、あなたを見捨てたが、大きなあわれみをもって、あなたを集める。怒りがあふれて、ほんのしばらく、わたしの顔を隠したが、永遠に変わらぬ愛をもって、あなたをあわれむ」とあなたを贖う主は仰せられる。”ほんのしばらくの間は見捨てるが、ふたたびその民に愛とあわれみを与えるとされました。エズラ記をとおして、神様の癒しと回復される神様の愛が表されます。

<4. エズラ記のまとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!

時々、我々も罪を犯したり、失敗もしたり、落胆する時もあります。ある時には我々が神を背いて、神から離れてなかなか罪をやめれない時には神様が我々をも懲らしめる時もありますが、永遠にそうさせておられません。傷ついた心をもって苦悩している我々を呼び寄せて、回復させてくださる方が我々が信じている神様です。我々もこの地上を生きていく時すべてが人の手のひらにあるように見えても、神様ご自身が我々の環境と人生をおさめてくださいます。いまま我々の中で、働いて、我々を導いて下さる方も神様です。我々の痛みも、苦しみも苦悩の現場で我々を包んで、癒し、慰め、真の回復への道に導いて下さいます。

クロス王の心を感動させ動かした神様がいまま我々の中で働きかけながら我々と回りの人々の心を変え、導かれます。過去の歴史の時も、いまま働かれる神様をみあげながら、望みを神様において生きるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますようにお祈り申し上げます。アーメン！